

学校概要

創立	53周年	学校長	三橋 淳子	副校長	岩澤 尚彦	学期	2 学期制	児童・生徒数	773人
学級数 一般級: 22 個別支援級: 2					主な関係校: 榊町中学校、師岡小学校、綱島東小学校、(綱島小学校)				

学校教育目標

- 「まち」とともに歩み、ともに学び自立できる子どもをめざします
- 自ら課題を見つけ、多様な解決をしていく子 (知)
  - 個性を伸ばし、互いのよさを認め合うことができる子 (徳)
  - 自他の健康や安全に留意できる子 (体)
  - 「まち」を愛する子 (公)
  - 地域、日本、世界に目を向ける子 (開)

学校の特徴

- 北側に鶴見川が流れ、南側に大倉山の梅林が広がるなど、都市部ではありながら比較的自然に囲まれた地域である。
- 学区内の大曾根、大曾根台は、大曾根商店街を擁する閑静な住宅街であり、綱島街道を挟む榊町地区には大規模マンションが立ち並ぶ。全体的には、学校の教育方針に沿って、家庭や地域が協力して児童を育もうとする風土がある。
- 学校地域コーディネーターの組織化、まちと共に歩む学校づくり懇話会の開催、学校施設を利用した地域自主防災訓練等の開催など、地域との連携が図られている。
- 近年、榊町地区・綱島駅周辺の再開発に伴い、児童数の急増が予想され、その対応策を具体化する必要がある。

学校経営中期取組目標

- 「生きる力」を育むために、人権教育を基盤として「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを進める中で、自分を大切にするとともに、周りの人と協調し、他を思いやる心を大切に教育活動を行います。児童理解に基づいた対応を、全教職員の連携のもとに進めていきます。
- 学力の定着に向け、授業力の向上に努めます。その中で、言語活動の充実及び指導と評価の一体化を図り、豊かな授業づくりに努めると同時に、チーム力を生かした学習の展開や方法の工夫に努めます。
- 保護者・地域と連携・協働して、学習環境の整備を推進します。
- 教職員が自己の能力開発やキャリア形成を積極的に捉えながら意欲を持って仕事に取り組めるようにし、教職員のキャリアアップを図ります。

小中一貫教育の取組

榊町中	ブロック	榊町中学校、師岡小学校、綱島東小学校、大曾根小学校
9年間で育てる子ども像	○ 自分や友達を大切に、思いやりのある心をもって行動をする子を育てる。 ○ 命の大切さや健康・安全の学習を進め、知識を生活に活かそうとする子を育てる。	
自校の具体的取組	・ 『誰もが』『安心して』『豊かに』生活できる学校、地域をめざし、自分も友達も思いやる教育の推進』のために、誰もがわかる、だれもが参加できる、一人ひとりを大切に授業づくりを進める。 ・ 年間4回行われる教務主任会の場を活用し、相互評価の機会として互いに授業参観を行う。 ・ 榊町中学校ブロックの取組として、授業公開及び研究会を行う。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎的・基本的な内容の確実な習得と、思考力・判断力・表現力を高め、互いの良さを認め合える、楽しく生き生きと取り組める授業づくりを進めます。	・ 重点研究のテーマに『誰もが』『安心して』『豊かに』生活できる学校を目指した授業改善』を置き、研究を深め、支援の実践につなげる。 ・ 全ての児童が「授業に参加し、力をつけている」という実感をもつことができる授業づくりを目指し、児童理解に根差した授業を実現できるよう、学年研及び研修を活用する。
豊かな心	思いやりや心と生きる力を育むため、「気持ちの良いあいさつ」「目標を決めてチャレンジする心」「互いに認め合える心」を育てます。	・ 児童会を中心に、児童による「あいさつ運動」を設定し、実践する。 ・ 道徳の授業や体験的な活動の充実に向け、『誰もが』『安心して』『豊かに』生活できる学校』を目標に、教職員による日常の声掛けや授業での関わりを工夫し、「互いに認め合える心」「チャレンジする心」の育成に努める。
健やかな体	健康・安全に関する情報提供、食育の推進、学校保健委員会の取組の充実を図り、休み時間等を活用して年間を通じた体力向上の取組に力を入れます。	・ 栄養士を中心に食育を推進し、配膳の工夫等具体的な面から指導する。 ・ 「安全に気を付けて生活する」をテーマに学校保健委員会を中心とした活動を展開する。 ・ 学級遊び、短縄週間、マラソンチャレンジ、長縄週間等、こよみに応じた体力づくりの取組を進めることで、体力の向上を図る。
児童・生徒指導	生活三本柱「あいさつをする」「時間を守る」「人や物を大切にすることを意識して生活できるようにします。たてわり活動を充実し、認め合い高め合う集団作りを進めます。	・ あいさつ運動を推進し、自発的にあいさつできるようにする。見通しをもてる授業・活動等の実践を通して時間を意識して行動できるようにする。 ・ 自尊感情を育むための指導を教職員が共有し実践することを重点課題として研究を進める。 ・ 状況把握に努め常にチームで課題解決にあたり、必要に応じて関係機関との連携を図る。
特別支援教育	支援を必要とする児童に対する指導方法の工夫・改善をし、どの子にも分かりやすく、楽しいと感じられる授業をめざし、全職員で取り組めます。	・ 児童の様々な特性についての理解のための研修を行い、指導・支援の基本を学び、日々の教育活動に生かせるようにする。 ・ 支援シート及び事例検討の機会を定期的に設定し、よりよい支援方法を共有し実践につなげる。 ・ 重点研究を通して、支援を実践していく考え方、手立て等を研究する。
保護者・地域連携	学校公開を積極的に行い学校だよりやHP等を通して情報の積極的発信に努めます。学校地域コーディネーター等を活用し、保護者、地域との連携を進めます。	・ 学校地域コーディネーター(大曾根小応援団)の活動が効果的に進むよう、コーディネーターと教職員が情報を共有し活用できるようにする。 ・ 地域の材や技を有する人材から学び、地域に出かけたり行事等に参加したりして、「まち」を知り「まち」を愛する子を育てる機会を学年に応じて設定する。
教育環境整備	校内環境を整備し、子どもの豊かな学びを支援できるようにするとともに、職員間の連携、情報の共有を的確なものにします。	・ 校内の環境や動線について教職員が常に意識し、実態を共有できるようにするとともに、より効果的に教育活動を進めるために必要な環境について学び合う時間を設定し、実践につなげる。 ・ iPad、実物投影机、発表ボードなどの教育機器等の活用を推進する。
いじめへの対応	全ての児童が安心して生活し、受け入れられていると実感できる受容的な環境づくり及び教育を受ける権利を保障するための支援を確実に実施します。	・ 自尊感情を育むための指導を教職員が共有し実践することを重点研究のテーマとして、YPアセスメント、横浜プログラムを活用した授業研究を進め、教職員の授業力・指導力を伸ばす。 ・ 定期的に、そして定期的な調査の実施により、常に状況把握に努める。そして事案発生時は管理職を含むチームで、関係機関と連携を図りながら、課題解決に向けての対応に努める。
人材育成・組織運営	効果的な組織運営を目指し工夫改善します。また、メンターチームの取組等により経験の浅い教員の指導力向上を図るとともにミドルリーダーの育成に努めます。	・ 管理職と主幹教諭が週1回定例及び臨時の主幹会をもち、学校運営の諸課題について共有し必要な発信や支援をすることで、組織で解決していけるようにする。 ・ 定期的にメンター研修を実施し、管理職、主幹教諭やミドルリーダーにあたる先輩の教職員が関わること、メンターの授業力・指導力向上を図るとともにミドルリーダーの指導力を伸ばす。